

— 鉄 鋼 ニ ュ ー ズ —

鉄鋼 1人当り消費量

欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) の調査によれば、世界各国の1人当りの鉄鋼消費量は、米国の1位で 577 kg (57年)、2位は西独の 439 kg (57年)、日本は8位で 142 kg (57年) となっている。この数字の計算は生産から輸出を差し引き輸入を加えたものであるが、ソ連だけは鋼生産だけを対象としている。詳細はつぎの通り。(単位 kg)

	1953年	1954年	1955年	1956年	1957年
米 国	629	480	620	605	577
西 独	363	349	438	450	439
英 国	331	332	383	402	397
フランス } ザール	208	224	248	285	371
ベルギー、ル } クセンブルグ	272	258	292	305	309
ソ 連	183	198	229	243	255
オランダ	195	188	219	221	229
日 本	77	72	82	111	142
イタリア	91	105	122	127	136

中国の鉄鋼生産高

薄一波中国副首相兼国家計画委員会主任は、中国の今1958年の鉄鋼生産はさる8月末決定された今年度目標1070万tをすでに繰上げて超過達成した旨発表した。

また中国政府冶金工業部が発表したところによれば、12月19日までに全中国の鉄鋼生産高は1073万tに達し、前年の生産高535万tの2倍に増した。さらに年末までの努力によつて年間生産高は12月の中共六中全会で予定した1100万t前後に達することができる。中国の鉄鋼生産は第1次5カ年計画中に年平均31.7%ふえ、5カ年間に計400万tふえたが、今年1年間の躍進によつてそれ以前の5カ年分を超過したものである。今年の8月の全国鉄鋼生産高を100とすれば、9月144、10月276、11月356となり、月ごとに発展している。

なお中国は1073万tの鉄鋼を生産したことにより、世界で7番目の鉄鋼生産国となつた。前年は第9位であつた。

発明功労者に紫綬褒章授与

政府はさる12月5日の閣議で、科学技術に関する発明や改良に功績のあつた紫綬褒章受章者27人を決定し、同月15日首相官邸で伝達式をおこなつた。受章者の中にはつぎの諸氏がある。

黒田泰造(日本タール協会顧問)—コークス炉の改良
石井太吉(石井鉄工所社長)—ガスタンクの改良とその国産化

原田源三郎(日本磁力選鉱社長)—交流磁選器の発明
只野文哉(日立製作所中央研究所第二部長)—複合電子レンズ

鉄鋼市場調査団の編成

生産性本部では、鉄鋼市場調査団を編成、2月23日から6週間にわたつて欧米に派遣することになつた。この団長には八幡製鉄常務平井富三郎氏、副団長に日本製鋼所専務小林佐三郎氏が内定した。派遣団員の顔触れつぎの通り。

内田幸穂(八幡)、石井正辰(富士)、宮内辰三郎(鋼管)
乙山正男(川鉄)、奥山鋼三郎(住金)、沼田博(神鋼)、
松本豊(通産省)、島善造(鋼材倶楽部)、森茂樹
(鉄鋼連盟)

広畑製鉄の広幅圧延機完成

富士製鉄がかねて広畑製鉄所に建設していた広巾冷延のレバーシング・ミル(逆転式圧延機)は完成し、このほど操業を始めた。この広巾圧延機の操業によつて、これまで年間約5000t(金額で約5億円)も米国から輸入していた自動車の天井板が国内で自給できることになり、これで日本の自動車産業の素材はすべて国内でまかなえることになつた。

この圧延機はワシントン輸出入銀行の借款をうけて U. E. (ユナイテッド・エンジニアリング) 社から輸入したもので総額11億円。ロールの巾2m(80inch)製品の巾1.82m(72inch)という日本最大のものである。従来わが国の薄板圧延機はロール巾1.37m(54inch)までしかなく、これ以上の広巾ものは輸入に頼つてきたが、これで漸く薄板メーカーとして世界水準に達した。圧延能力は月1万tで、さし当り月7000tを目標としている。

日本特殊鋼管の電縫管工場成る

日本特殊鋼管では、従来の継目無鋼管から電縫管(中径)に進出するために、八幡製鉄光製鉄所敷地の一部に総工費22億円で建設中の中径管設備は33年8月25日完成し、その後各サイズの試圧をおこなつて来たが、成績も順調で、1月から本格生産に入ることになつた。第一期計画である中径管設備の能力はつぎの通りで、電縫管工場としてはわが国最大のものといわれている。

寸法範囲 外径 114.3~355.6mm(呼び径4~14inch)
厚 さ 4.0~11.0mm、長さ最大12m
生産能力 月間10,000t(2交替)

八幡製鉄戸畑専用港の披露式

八幡製鉄は、33年8月完成した戸畑専用港の完成披露式を11月21日に挙行政した。この港湾は岸壁の長さ200m、水深11mで、3万重量tの鉱石が接岸でき、1時間1千tの能力をもつ陸揚げ起重機2基がある。

中山製鋼の平炉工場建設計画

中山製鋼では先ほど愛知県知多郡武豊町に平炉3基を中心とする工場建設をおこなうむね発表した。それによると愛知県臨海工業地帯造成計画の埋立地約2万坪に50t平炉3基を建設、これに伴つて線材ミル、万能中小型条鋼ミルおよび中大型ミルなどを本年6月ごろまでに建設する。なお同工場の月産能力は約2万tの予定。

産業巡航見本市船の出発

日本産業巡航見本市船あとらす丸(大阪商船所属10,447重量t)は、33年12月8日東京港出発、中・南米諸国訪問の途についた。同船は出帆を前に6つの船艙に飾られた各産業界自慢の優秀品を一般に公開した。この中には鉄鋼各社から日本の誇る数々の鉄鋼製品が「日本鉄鋼輸出組合」の名で出品されている。